

# スジケシガイ

*Carychium noduliferum* Renhardt  
新生腹足目・ケシガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

微小貝であるため、確認が難しい種であるが、県内では生息地である自然森林が改変されており、個体数が減少している。

## 分布

北海道、本州、四国、九州、琉球列島（奄美、沖縄）に分布する。県内山地のれきまじりの杉の落葉下等に分布する。

## 種の特徴

微小な白い貝で、殻高 2 mm、殻径 0.8 mm、螺層 6 層の美しい。殻表は平滑に近く光沢のある半透明色をしている。外唇中ほど少し上と、内唇中ほどの滑層上と軸唇端に歯がある。

## 生息を脅かす要因

湿潤な自然林に生息する種であるため、森林伐採による乾燥化等が個体数減少の要因となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014）、福井県編（2002）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○	○			○	○						○	○	

# クリロキセルガイモドキ

*Mirus andersonianus* (Moellendorff)  
異鰓目・キセルガイモドキ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

## 選定理由

亜高山帯自然植生や冷温帯自然植生の林床に生息しているが、個体数が激減している。

## 分布

北海道から鳥取県までの主に日本海側に分布。本県内では奥越山地から南条山地の標高 800m 級以上のブナやミズナラ、イタヤカエデ等の林床の倒木・落葉下に生息する。

## 種の特徴

殻高約 22 mm、殻径約 8 mm、巻数 7.5 回で右巻中型。殻は濃い栗色の光沢があり円錐形で殻口は卵形。唇縁は白い滑層となり反転、殻表面に顕著な網目状彫刻がある。軟体部は暗黒色。本県内では唇縁が赤紫色の地方型エチゴキセルガイモドキ系の個体が多い。

## 生息を脅かす要因

林道開発や針葉樹植林。森林伐採による生息環境の改変が主な要因である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、福井県編（2002）、湊（1999）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○						○	○	

# オクガタギセル

*Mundiphaedusa dorcas* (Pilsbry)  
異鰓目・キセルガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

## 選定理由

トノサマガセルやハゲギセルと共存する奥越、加越山地の白山山系の標高 700m 以上に生育するブナ・ミズナラ林では、生息地が縮小し、個体数が大幅に減少している。

## 分布

関東山岳から白山山系の山岳地に分布する。県内では、南越前町や大野市等の山岳地帯で局所的に分布する。

## 種の特徴

殻高 35 mm、殻径 6.5 mm 程度。殻は弱い光沢のある黄褐色で、紡錘形。軟体部は淡褐色である。

## 生息を脅かす要因

森林伐採等の環境改変や、コレクター等による採集行為等が要因である。

参考文献 福井県編（2002）、環境省編（2014）、福井県自然環境保全調査研究会編（1985）、東（1995）、湊（1994）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○						○	○	